



Laurence Oliphant
Narrative of the Earl of Elgin's mission to China and Japan
in the years 1857, '58, '59
Edinburgh, 1859

**L. オリファント『1857, 58, 59年におけるシナ及び日本への
エルギン伯使節団の物語』**

著者のローレンス・オリファント(Laurence Oliphant 1829-1888年)は、南アフリカで生まれ、その後父親の仕事の事情で英国、セイロンに滞在、ヨーロッパ各地やネパール、ロシアを訪問し旅行記を著した。幕末に清国との天津条約や日英修好通商条約の締結のための使節として、1857年英国より派遣された外交官エルギン卿(James Bruce, 8th Earl of Elgi)に随行し、清国および日本を訪問。その時の記録を本に纏めた。

当時の清国は英国の統治下におかれていたが、外国人排斥運動が盛んで、英国人を対象とした暴動が頻発していた。騒乱や貧困に見舞われていた清国とは反対に、日本の風光の美しさや都市の繁栄など、オリファントは日本の文化水準の高さに感動し、その特徴を詳細に書き残している。2週間という滞在期間ではあったが、日本社会の描写のみならず、江戸幕府との交渉の様子も詳細に記録され、幕末外交資料として貴重な1冊である。

本書はシナ(中国)および日本への特別使節の記録についての2巻本であるが、後半の日本に関する部分は『エルギン卿遣日使節録』として日本語に翻訳・出版されている。

ライブラリーでは初版(1859年刊)は第1巻のみ所蔵。第2版(1860年刊)と米国で1860年に出版された合本も所蔵している。